

## 東日本大震災復興支援に思うこと

(株)E&Gアカデミー 佐藤健一氏

今、東北では現地リーダー、また現地に入り込んだリーダー達が獅子奮迅、悪戦苦闘しながら復興への歩みを進めています。彼等が口々に言うのは、"被災した方々の人生、地域の復興を担う使命感"そして、"復興を共に歩めることへの誇りと興奮"です。自らの人生への挑戦を考えている方であれば必ずや呼応し共鳴する何かがあることでしょう。

東日本のボランティア詰め所はまずは物見遊山で結構ですから、一度被災地に来て見てくださいと話します。

百聞は一見に如かずなのでしょう。被災地に立ってただ茫然とするときから、何か自分にできることは無いか、自分を必要とすることはなんだろう、少しでも役に立ちたい、そんな気持ちになる。米国は勿論、韓国、中国、人種国家、国境も関係無く、泥の掻き出し、経験の無い高圧水ポンプを使い洗浄している、皆いい人である。

震災翌日3月12日の新聞に11日未明から東京消防庁を中心とした消防車約60台が東北に向かった様子が記載されていました。東北道を北へそして気仙沼に着いた時、付近の住民の方が消防車の列に向かって手を合わせ、深深とお辞儀をされていたそうです。それを一消防隊の人が見、救助というのは現場で助けることだけでなく人を安心させる、助かるという思いを持ってもらうことの大切さ(自分の存在が人を安心させている)に気付かれ、心がふるえたとありました。警察、自衛隊、米軍、ボランティア含め多くのあらゆる援助隊も使命感を感じたことでしょう。人を安心させることの大切さを改めて感じるわけです。

ガーデンを考える会も水野会長のもとに賛同された多くの会員の皆様が花苗などの支援活動を通して、小学生の児童はじめ被災された皆さんに癒しと希望を与えたものと思います。子供たちの感謝の気持ちを託した手紙の奥には、必ずや復興し立派な日本を創り上げるそんな使命感が生まれていたことでしょう。

「使命感」。古い教科書にありました日清戦争での死して尚ラッパを口から離さないラッパ手の木口小平の有名な逸話を思い出しています。南三陸庁舎で津波に吞まれる最後まで避難指示を放送し続けた若い女性職員、消防団員、警察、多くのドキュメントは使命感のなせるものでしょう。

この度の大震災は人生観にも大きくインパクトを与えました。「がんばれ日本」です。未曾有の大災害から復興に向けて立ち上がろうとしている東北は、最も"挑戦"を必要としている地域の一つであることは、間違いありません。そして、それは被災地の方々だけの"挑戦"では有りません。

自身の役割を求め、これまでビジネスの世界で研鑽を積んできた方々が、自らの"挑戦"を東北(東日本)の地に見出し、力強く復興を後押ししていくこと。そうした力が重ね合わさることが継続されることが、この復興には必要不可欠と考えております。



カエデ  
kaede

ガーデントライアル IN 八ヶ岳 2011

## 1千名が来場し、盛大に開催

当会が主催し、秋の園芸商談会として定着したガーデントライアルは、9月27~28日の2日間、「ガーデントライアル IN 八ヶ岳 2011」として、フィオーレ小淵沢とチバナーセリーの2会場で31社出展のもと、会場いっぱいで開催しました。

両日とも好天続きで、秋風の中にも暑い日差しの中で開催されましたが、小淵沢会場では、ホームセンター、園芸専門店など小売バイヤーをはじめ市場や問屋などの流通関係者、生産者、メーカー等業界関係者約1千名が参加し、商談・情報交換を繰り広げました。

特に今回はガーデントライアル2回目であり、出展社は秋の新商品発表の場としてとらえて新商品発表が多くありました。

一方来場者の業種は、園芸店、ホームセンターなど小売関係が31%、市場卸関係が18%と、約半分が小売・流通で商談が活発に行われました。商品・植物のメーカー種苗・生産関係も45%にのぼり、トレンドを探る情報の交差点となりました。また、出展社同士によるコラボレーション企画も活発で、新商品開発の場としても活用されていました。

ハウス1棟を使ったサカタのタネでは初日に新製品の記者発表を行い、約10社のメディアがガーデントライアル取材したことも今回の特徴でした。

チバナーセリー会場で展示したハクサングループは、2日間開催と前回に比べ1日減った開催でしたが、生産者を中心に前回は上回る来場者で賑わいました。

ガーデントライアルは、2012年もさらに充実して開催します。ご期待ください。

### 矢野所長のセミナーも好評

27日午後にセミナー室で開催されたガーデンスタイル研究所 矢野信行所長による「英国ガーデンの現状と日本のガーデンのあるべき姿について」セミナーは、募集を上回る40名を越える参加者がありました。映像を中心にしたわかりやすい講演で、質疑応答も予定時間を大幅に超える充実したセミナーとなりました。

<http://www.npogarden.com/gtrial/>



明るいコンサバトリー1Fホール会場



1F体験棟での展示会場



2Fホール会場では八ヶ岳が一望に



温室を使ったサカタのタネ会場



矢野所長の講演会場



カエデ  
kaede

## ガーデニングワールドカップ・フラワーショー in ナガサキ 2011

### 10月8日～11月6日、ハウステンボスで開催

国内外のトップガーデナー 16 名が、パレスハウステンボス前庭でショーガーデン部門を、アートガーデンを舞台にスモールガーデン部門を展開、平和への思いをこめたメッセージを花と緑に託してその技を競う。

「チェルシーフラワーショー」のゴールドメダリストをはじめ世界各国からトップガーデナーが集結する「花と緑の祭典」で、昨年は世界中から 10 組 12 名が参加し、今年はさらに規模拡大して開催される。



ガーデニングワールドカップ2010ベスト・イン・ショー（グランプリ）  
『手を差し伸べて（Reaching Out）』/アンディ・スタージェン（イギリス）

Gardening World Cup 2011  
公式サイトはこちら

## 食べられる桜が登場

### 花見に収穫、果樹としての桜に期待

黄色い花卉の桜など、驚きの桜を次々と生みだしてきたことで有名な石井重久さん（JFC・石井農場）が、果樹としても期待される桜をつくり話題になっている。山形市釈迦堂で、啓翁桜などの花き生産を行う石井さんは、これまで 600 品種以上の桜を生み出してきた。その中から育種した桜「ふくいく」「来幸桜」の 2 品種を、花も実も楽しめる桜として売り出しているもので、「ふくいく」「来幸桜」は昨年から、切り枝・鉢花として流通している。  
<http://www.prunus.net/>



## 有志が復興支援イベント

### 世田谷花き市場で1500人参加

東日本大震災の被災者支援を目的に4月に設立された「花のカプロジェクト」（かねとういさお代表）が主催となり、7月16日の夜、東京・世田谷市場で復興支援イベント「花の力 for Japan」が開催され、当日 2500 円の料金にも関わらず、目標を大きく上回る 1500 人が来場した。

日本の第一線で活躍する5人のフラワーデザイナー、ニコライ・バークマン氏などによるフラワーアレンジのデモを中心に、普天間かおりさんのミニライブ、花のワークショップ、チャリティーオークション、東北物産マルシェなど、多彩な催しが行われた。今回の収益はすべて、花を使った被災地支援にあてられる。



平和への祈りが込められたフラワードーナツ



被災地のパネル展示に改めて震災の日を想う来場者



カエデ  
kaede



## 江戸東京野菜を屋上で！

(有)緑花技研 小林 直子



9月10日、東京駅八重洲北口から徒歩3分のビルの合間に農園が出来上がりました。これは大丸有農園協議会という団体が主体となり行う事業で、都市農業の振興を目的としています。東京の伝統野菜である江戸東京野菜を東京で消費するために、東京で生産しよう、という取り組みです。

江戸東京野菜の多くは東京近郊の農家で生産され、復活への取り組みが徐々に拡大しています。のらぼう菜、亀戸大根、金町コカブ、馬込人参など様々なものが丸の内地区のレストランへ供給され、旬の江戸東京野菜を使った料理がグルメの舌を楽しませています。

さて、東京で地産地消を考える上でネックとなるのが「どこで生産するか」という都心ならではの土地不足の問題です。土地代が高い、日当たりが悪い等、農地にするには不向きな場所が多いと言われています。

そこで考えられるのが屋上の活用です。ここ数年の家庭菜園ブームにもおされ、公共、民間を問わず様々なタイプの屋上農園がオープンしています。初心者用に手厚いサービスのあるもの、社員の福利厚生のためのもの、幼稚園での食育を目的とするものなど、その目的と要望に合わせて形態は千差万別です。

しかし、江戸東京野菜のような伝統野菜の栽培を目的としたものはまだなく、軽量土壌での栽培は果たして可能なのか、最適な土壌のブレンドは何か、解決しなければならない課題も少なくありません。このための試験栽培を行うのが今回の人工基盤上の農園なのです。

生産地をより消費場所の近くへ、消費者から見える場所へという動きの最終地点とも考えられる都心部の屋上農園に取り組み、江戸東京野菜の栽培を行うことで、農家から料理人を経て消費者へと至る交流が生まれ、「食」という非常に親しみやすいテーマから、そのあり方を見つめなおす機会を提供する新しい都心の形を創出できると期待しています。



## 生産者部会より

### チェッカーベリー

兵庫県の杉本園芸です。標高800mほどある高原でチェッカーベリーを栽培しております。

夏に小さな白い花を咲かせ実になります。

そして秋の深まりとともに真っ赤に色づいてゆく姿はとてもかわいらしいです。

寒さにも非常に強く、10月～3月くらいまで屋外で長く観賞できます。

まさに冬のガーデニングアイテムにもってこいの商材です。

今後、研究努力を重ねよりクオリティーの高い商品づくりをめざしてがんばりたいと思います。

杉本園芸(関西支部)

